

② インターンシップと採用・就職活動

インターンシップの実施率や目的、採用・就職活動との関係は? ※インターンシップには1日の仕事体験型も含む

インターンシップの Web実施が増加

インターンシップの実施状況と採用・就職活動との関係について見てみる。

インターンシップ実施経験のある企業のうち、2021年卒対象に直面でのインターンシップを実施した企業は79.7%、Webで実施した企業は17.5%だった(グラフ①)。また、22年卒対象に直面で実施(実施予定含む)する企業は57.4%で、前年卒対象から22.3ポイント減少した。一方、Webで実施(実施予定含む)する企業は54.0%と、前年卒対象から36.5ポイント増加し、半数を超えた。コロナ禍により、直面での実施に制約を受けてい

る影響が見てとれる。なお、22年卒対象のプログラム内容は、対面は「職場や工場の見学」(58.8%)が、Webは「通常業務ではなく別の課題やプロジェクト」(56.8%)が最も多かった(複数回答)。

受け入れ人数の平均値を21年卒と22年卒と比較すると、対面実施は21年卒が98.5人、22年卒が57.9人で40.6人減少。Web実施は21年卒が122.0人、22年卒が146.7人で24.6人増加した。

一方、学生の参加率は15年卒から上昇を続け、21年卒では70.8%と20年卒(62.2%)から8.6ポイント増加(グラフ②)。インターンシップに参加することがさらに一般化していることが分かる。大学・大学院生別に見ると、大学生の参加率は

70.1%、大学院生は76.7%。理系女性(83.2%)、文系女性(76.0%)、理系男性(66.8%)、文系男性(63.3%)の順に高かった。また、地域別に見ると、「北海道・東北」「関東」「近畿」で7割を超えている一方、「九州・沖縄」は60.7%で最も低かった。

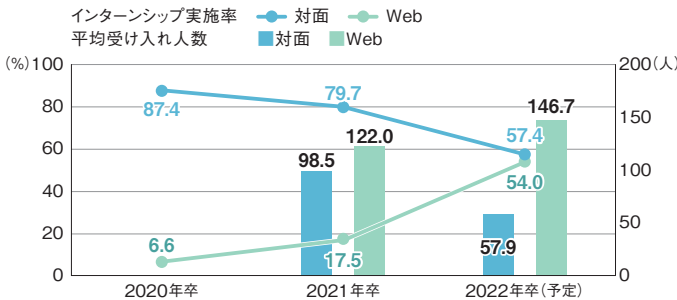
平均参加社数は5.79社で、20年卒(4.53社)から1.26社増加した。具体的な社数は、「6社以上」が最も多く29.8%。次に、「1社」(17.7%)、「2社」(17.0%)「3社」(15.7%)が続いた。

インターンシップ実施企業の約3割が採用を目的に

次に、21年卒対象のインターンシップ

企業 インターンシップをWebで実施した企業は2割弱だが、22年卒向けでは5割を超える

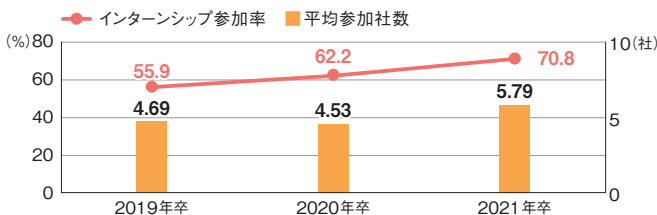
① インターンシップ実施の割合と平均受け入れ人数 ※1



21年卒対象のインターンシップをWebで実施した企業は17.5%で、20年卒から10.9ポイント増加。対面で実施した企業は79.7%だったが、20年卒から7.7ポイント減少した。

学生 21年卒の約7割がインターンシップに参加

② インターンシップ参加の割合と平均参加社数 ※2

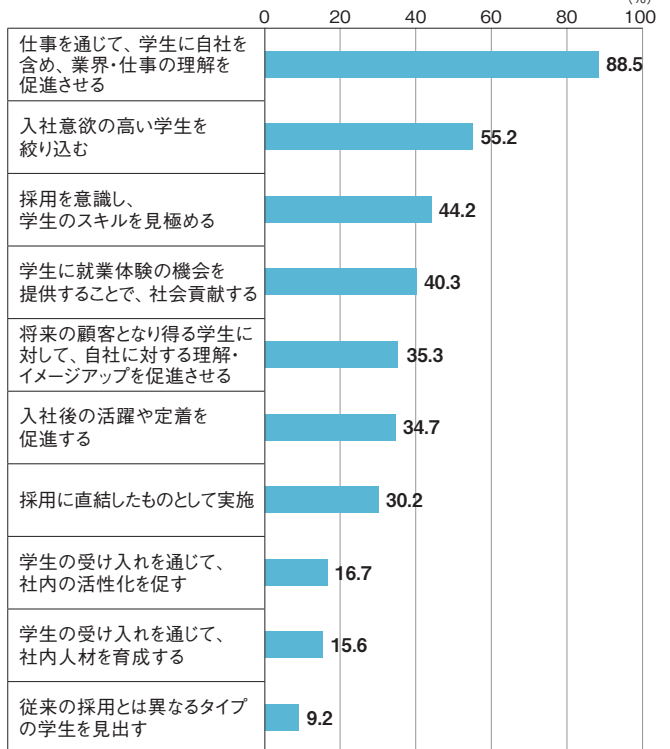


21年卒について、参加率を内定取得経験の有無別に見ると、内定取得経験のある学生の参加率は74.1%、取得経験なしの学生の参加率は50.3%と差が見られた。

企業 21年卒対象のインターンシップの実施目的は「業界・仕事の理解の促進」がトップ

③ 2021年卒対象のインターンシップの実施目的

※2021年卒対象インターンシップ実施企業/複数回答
※「その他」[特に目的はない]は割愛



「入社意欲の高い学生を絞り込む」(55.2%)、「採用を意識し、学生のスキルを見極める」(44.2%)など、採用を意識した目的が上位に入っている。

※1 実施割合：インターンシップ実施経験あり企業/単一回答、受け入れ人数：該当卒年対象インターンシップ実施企業/実数回答
※2 参加割合：学生全体/単一回答、参加社数：インターンシップ参加者/実数回答



を実施した企業に実施目的を聞いたところ、最も多かったのは「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる」で88.5%。次に、「入社意欲の高い学生を絞り込む」(55.2%)、「採用を意識し、学生のスキルを見極める」(44.2%)、「学生に就業体験の機会を提供することで、社会貢献する」(40.3%)が続き、採用を意識した目的が上位に入った(P10・グラフ③)。

インターンシップと採用選考の関係をさらに詳しく見てみる。

21年卒採用および21年卒対象のインターンシップを実施した企業に、内定者のインターンシップ参加状況を聞いたところ(グラフ④)、内定者の中に自社インタ

ーシップ参加者が「いた」企業は82.5%で、20年卒(77.5%)から5.0ポイント増加した。また、インターンシップを「そもそも採用を目的として実施」している企業の割合は42.3%で、こちらも、20年卒(30.5%)から11.8ポイント増加。採用を目的にインターンシップを実施する企業の割合は年々増加傾向が見られる。

次に、採用数における自社インターンシップ参加者の割合を聞いたところ、平均30.3%で、前年(23.4%)から6.9ポイント増加した(表⑥)。サンプル数が少ないため参考値ではあるが、従業員規模別に見ると、「5000人以上」企業(平均33.8%)と「300人未満」企業(平均33.0%)、地域別に見ると、「北海道・東

北」(平均40.1%)などで他規模・他地域に比べて高い割合となった。

約4割がインターンシップ参加企業に入社予定

一方、学生の状況を見ると、インターンシップに参加した経験のある学生のうち、「インターンシップ参加企業に入社する予定」の学生は39.5%(グラフ⑤)。「インターンシップ参加企業ではないが、同業種の企業に入社する予定」の学生(25.3%)と合わせると64.8%で、前年(69.1%)より4.3ポイント減少。「まったく異なる業種の企業に入社する予定」の学生は34.8%で、前年(30.7%)より4.1ポイント増加した。

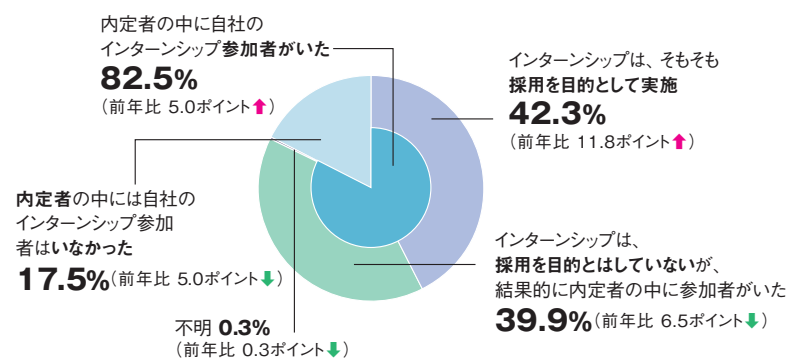
企業

8割を超える企業で、内定者に自社のインターンシップ参加者が

学生

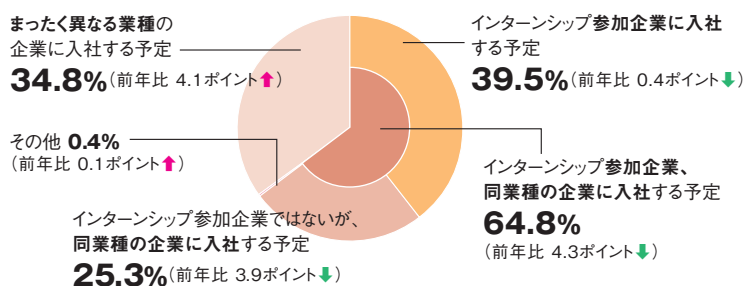
④ 内定者のインターンシップ参加状況

※2021年採用実施かつ2021年卒対象インターンシップ実施企業/単一回答



⑤ インターンシップ参加企業への入社予定状況

※2021年卒/インターンシップ参加者・就職先確定者/単一回答



内定者の中に自社のインターンシップ参加者が「いた」と回答した企業の割合は、18年卒の70.6%から3年で10ポイント以上増加した。

企業

採用数のおよそ3割がインターンシップ参加者

⑥ 2021年卒採用数における自社インターンシップ参加者の割合

※2021年採用実施かつ2021年卒対象インターンシップ実施企業/実数回答

	平均値
全体	30.3%

従業員規模別	
300人未満	33.0%
300～999人	29.2%
1000～4999人	28.0%
5000人以上	33.8%

地域別	
北海道・東北	40.1%
関東	30.6%
中部・東海	28.3%
関西	28.7%
中国・四国	30.8%
九州	24.2%

参考値ではあるが、従業員規模別に見ると、「5000人以上」企業において平均33.8%と他規模に比べて高かった。また、地域別に見ると、「北海道・東北」の平均40.1%が最も高く、「九州」の24.2%が最も低かった。